







元禄年間名古屋城下絵図

普光寺蔵

昭和三年十月吉日  
普光寺十七世齋成  
明照山主記

此の地は元禄元年(1688)に徳川家康が築城した。その時、この地は荒れ地であり、徳川家康はここに城を築き、名古屋を治めた。この地は、徳川家康の命で築かれた。その時、この地は荒れ地であり、徳川家康はここに城を築き、名古屋を治めた。この地は、徳川家康の命で築かれた。その時、この地は荒れ地であり、徳川家康はここに城を築き、名古屋を治めた。

- 寺院：寺院跡
  - × 神社：祠
  - 街道松等
  - △ 庄屋屋敷
  - 農家
  - ◇ 町屋
  - 道標
  - 街道概念(街道松等から推測)
  - 那古野村概念
  - 池
  - 河川
  - 那古野台概念(5~15m)
  - 城館跡
  - 古墳
- \*天正五年(1587)創建の「普光寺所蔵」の「元禄城下図」を基にしました。

清須越(那古野から名古屋へ)

徳川家康が慶長十四年(1609)「名古屋遷府令」を発し、翌年から築城が始まった名古屋城は寒村に築かれたように云われるが、荒れていたのは那古野城跡(二の丸)一帯で、那古野村や城下町(三の丸)は那古野廃城後も宿場として機能しており、市が立ち寺社も複数あり、天王祭も行われたり、万松寺の寺内町もあるなど、当時としては大きな町だった。今市場街道等、清須に通ずる街道は「清須街道」とも呼ばれるが、天正十四年(1586)徳川家康が三千程の供廻で上洛の途次、那古野に宿泊している。宣教師の記録(フロイスの日本史)によれば織田信雄の館もあったようであり、また、清須城主松平忠吉が鷹狩等で那古野に来た時には磯谷屋敷(三の丸)を休息所とした。

本町通の東側(東ヶ輪)は畝のように南に平山が連なる地形で、山を削り谷を埋め基盤割の城下町を造っており、清須越(名古屋越)による「那古野から名古屋」への引越は、清須からの引越程ではないにしろ大変な事だった。しかし清須越程には語られず、記録もほとんど残っていないのだが、参考までに清須越直前の那古野周辺を推測してみた。

【主な参考文献】  
『尾陽雑記』尾参郷土史 尾張志：名古屋市史：新修名古屋市史：尾張名所図会：尾陽名所図会』『名古屋叢書・昔咄』扶草：金麟九十九之塵：金城温古録：尾張御行記：松濤神筆：菫の滴 感興漫筆：那古野府城志』『名古屋郷土史叢書・橋町』末広町誌：門前町誌：門前町史雑記：裏門前町誌：東大曾根町誌』『古地図で見る名古屋「名古屋城下図」』『安政名古屋図』『名古屋市見晴考古資料館：研究紀要 第五号』『名古屋城史』『愛知県の地名』『広小路物語』『百年むかしの名古屋』

名古屋開府400年記念祭パートナーシップ事業  
清須越400年事業ネットワーク  
〒464-0057 名古屋市千種区法王町2-5-1  
(NPO法人 揚輝荘の会内)